

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会  
CISPR A 作業班（第 4 回）議事要旨（案）

- 1 開催日時：平成 25 年 8 月 6 日（火） 14 時 00 分～17 時 20 分
- 2 開催場所：金融庁（中央合同庁舎第 7 号館） 14 階 1414 会議室
- 3 出席者（順不同）

【構成員】篠塚主任 (NICT)、田島主任代理 (NTT-AT)、雨宮構成員 (NTT-AT)、石上構成員 (NICT)、石田構成員 (ARIB)、黒沼構成員 (協立電子)、杉浦構成員 (NICT)、垂澤構成員 (NTT ドコモ)、中村構成員 (JBMIA)、中嶋構成員 (JQA)、濱住構成員 (NHK)、益田構成員 (JET)、三塚構成員 (TELEC)、宮田構成員 (JEITA)、服部氏 (NTT-AT) 【オブザーバー】

【事務局】総務省：澤邊電波利用環境専門官、黒田係長、寺田官

#### 4 議事概要

- (1) 事務局から配付資料の確認が行われた。
- (2) 資料 4-1 前回議事要旨案について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認されたが、その場で修正意見が出された。

雨宮構成員：資料 3-2 について、「その方法でも試しているが、測定ができない」と記載があるが、正しくは「測定しても十分な評価ができない」なので修正したい。

杉浦構成員：伝導妨害波のレベルが低いという意味か。

雨宮構成員：レベルが低いのでなく、プラズマディスプレイの放射に起因するレベルが良く分からないため、十分な評価ができていないという意味。

- (3) 資料 4-2

雨宮構成員：SC/A の 6.4.1 について、CISPR22 の内容は記載の通りだが、ここに CDNE の測定法を検討するという FDIS の内容が入っていない。

篠塚主任：1025RVC が CDNE を指している。そのため、6.4.1 が CDNE になる。

雨宮構成員：F1 の RVC が A/1019 を指し、F2 の RVC が A/1025 であり、CDNE を指しているということよろしいか。

篠塚主任：問題ない。

#### 【8.1.4 16-1-6 (WG1 関連)】

田島主任代理：AAN の提案を SC/I で行うに当たり、あらかじめ SC/A で議論した後にまた SC/I で議論するようなことはあり得るのか。

雨宮構成員：そのようなことは過去にもある。一度 SC/I から SC/A に提案した場合、根拠資料をつけてもう一回提案しようということになり、逆に SC/A から正式に検討依頼がかかるまで待っていた。今回も SC/I の関係者は全員そのような意識。WG において SC/A から SC/I に正式な検討依頼を出してもらった方が良いのではないか。

篠塚主任：要するに、現在の 16-1-2 で記載されているシャントタイプの AAN は間違っ

いるが、Pが0.1など小さい値なら、LCL50dB くらいの値なら問題ない、という方向でまとめようとしているという理解で正しいか。

杉浦構成員：その理解で問題ない。

篠塚主任：両宮構成員がおっしゃった、現行で使用されているものがダメとなると影響が大きいため、そうはならないようにするとともに、使用できる限度があるとうことを示すという意図か。

杉浦構成員：その理解で問題ない。

#### (4) 資料4-4 (WG2 関連)

両宮構成員：SC/Aの対処方針で、CDNEのFDISの話をしたが、WG1の対処方針には同様のことを記載しておく必要はないのか。

篠塚主任：SC/AのWG1のアジェンダには出ていない。お手もとにある対処方針は、WG1のアジェンダに基づいて作成したもの。FDISまで進んでいるため、このあとの審議はないものと思われる。

服部オブザーバー：CMADとVHF-LISNについて、CMADが使えるかどうかということと、それを使った測定法をどう適用するのか。

篠塚主任：測定法に適用するか否かは5.3のとおりであり、現在はCDVの段階。このままFDISになるのではないか。

服部オブザーバー：F作業班では、CMADを使用して照明のエミッションを測定する方法を提案しようとしている。その理由は、CMADしか使えないということと、CMADの方が測定が安定するというものであった。

篠塚主任：サイト間の差がなくなるのはVHF-LISNも同様。CMADは、100MHz以下の測定で放射が減ってしまう。それが地上に出た場合は、リスクが生じることになる。

杉浦構成員：EUTメーカーとしては特段問題ないと思う。

両宮構成員：CMADによる評価は実態を過小評価するため問題があるのではないか。

杉浦構成員：SC/Fで提案する内容と、SC/Iで提案する内容が違っていると混乱しないか。

服部オブザーバー：特段F作業班の方針にしたいと考えるものではないが、どちらかに合わせるよう調整が必要ではないか。

杉浦構成員：SC/IではVHF-LISNを提案し、SC/FではCMADを提案するとなると機器によって物が違うのかという話になる。

篠塚主任：SC/FはCMADが既に規定の中にあるため、それを使用するというもの。

両宮構成員：CISPR22の第4版でCMADを全面導入したところ。27カ国中ほとんどの国は再度デリートに賛成し反対は3カ国であった。その理由は、実態を模擬していない（過小評価している）ため。

篠塚主任：調整はCAGですべきであり、ここは調整する機関ではない。

杉浦構成員：基本的には電波利用環境委員会で議論すべき。

篠塚主任：委員会では、基本的に WG の文書は審議しない。

中村構成員：CISPR16-2-3 等に記載される CMAD 等は基本的には SC/I や SC/F がそれを使用するという意思がなければ記載する必要はないのではないかと。CMAD を使用することを SC/F の対処方針に記載するのではなく、「CISPR16-2-3 に従う」とだけ記載すれば良いのではないかと。測定法は 2-3 で規定されている。CMAD も 2-3 で使用することが議論されているが、I でも F でも CMAD を使用することを記載する必要はない。「測定法は 2-3 に従う」だけで良い。

杉浦構成員：CMAD は電流が 0 になる。VHF-LISN は良心的で CMAD のような無限大インピーダンスの挿入ではなく、50Ω や 100Ω のインピーダンスを挿入したような電流が流れるため、それなりの放射が出ることになる。良心的なのは CISPR/I の方。

中村構成員：5.3 項の LPDA については、前回反対したが、別の項目で再度提案されると聞いた。

田島主任代理：中身がどのような形で提案されるのかが良く分からない。

中村構成員：実際に LPDA で測定する際、周波数に応じて EMC 試験をするときに補正をすることは、ユーザーにとって負担。そのようなことをする必要はあるのか。

杉浦構成員：EMI 測定の場合、3m でアンテナを LPDA で使用している場合、周波数によって測定距離が少し違っている。これは補正すべき。周波数帯ごとの補正のリストを作成し、コンピューターに入れておけば、周波数を決めれば、値もすぐに決まるだろう。

雨宮構成員：8.4 項について。ここでは、SC/A の WG1 では、AAN として色々なタイプが取り上げられているが、それを WG2 では、どのように使用するかといった議論なのか。

篠塚主任：SC/A と SC/B の GCPC に対する会合はこれが初めて。バンコクでは「会議を作ろう」ということになった。SC/B のアドホックの GCPC はかなり議論がされており、比較されたもので実際のデータを取得し、リミットも提案されている。

■主任から、修正点を踏まえて 8 月 26 日の委員会に提出する旨説明。

(5) 資料 4-5 (オタワ会議参加者リスト)

■廣瀬氏 (パナソニック) を追加。

※出席する会合は、SA/A、WG1、WG2、WG1 アドホック、WG2 アドホック

■SC/A は、篠塚氏を「Hed of Delegation」、他のメンバーを「Delegation」に修正。

(6) その他

雨宮構成員：CISPR32 を国内答申すべくアドホックグループを立ち上げて和訳作業を進めている。CISPR32 第 2 版が来年春くらいには FDIS が出ると思われる。CISPR32 は来年の秋くらいに第 2 版の内容も含めて答申を出そうという計画で進めている。

その場合、CISPR32の答申で参照しているCISPR16シリーズについての答申作業はどのようなになるのか。

篠塚主任：CISPR32アドホックリーダーの千代島氏やVCCI様からCISPR32の答申にあたり、CISPR16シリーズの答申が必要と言われている。そのため、資料はそろえてあるので、オタワ会議報告の際の作業班会合（10月）では、CISPR16シリーズの答申案を検討するアドホックグループの立ち上げについて説明したい。スケジュールとしては、CISPR32の答申時期である来年秋ごろに答申を出すように進めたい。

杉浦構成員：オタワ会議のあとまで待つ必要はあるのか。とても時間がかかると思うので、すぐにでも立ち上げた方が良い。

事務局：立ち上げは良いが、実際の作業を行うために一度集まる必要があるのではないか。例えば、メール審議で立ち上げの承認をとるのはどうか。

篠塚主任：主任・主任代理等と事務局で相談してメール審議でCISPR16シリーズの答申を検討するためのアドホックグループを立ち上げるという議題をメール審議で行い、了解が得られましたら実行に移したい。このあたりは、事務局と主任・主任代理等で確認させていただきたい。